参加料

一般申込	維持会員の方	
	ご加入1口につき1名様	口数以上のお申込
10,800円(税込)	無　料 ※ご招待券を8月上旬頃に発送いたします。	5,400円(税込)／1名様

※有料のお申込の場合は、請求書をお送りしますので、開催前日までにお振込ください。尚、欠席された場合にも原則として返金はいたしませんので、予めご了承ください。

維持会員制度のご案内

維持会員制度は、当協会の事業目的に対してご理解いただける方に、私どもが取組む標準化推進活動をご支援いただくための制度です。当協会は、会員の皆様とのコミュニケーションを深め、会員の皆様から、より一層のご支援が得られるような活動に取組んでまいります。皆様の維持会員制度へのご参加を、お待ち申し上げております。

［会　費］1口につき年額2万円(不課税)

［特　典］●特別割引にて規格をご購入いただけます。
- ●国内外の最新の標準化情報をご参照いただける月刊誌を毎月無料でお届けいたします。
- ●当協会主催の品質管理及び標準化に関する講習会・セミナーが、特別割引にてご参加いただけます。
- ●当協会主催の「標準化と品質管理全国大会」、「標準化と品質管理地区大会」に1口につき1名様を無料でご招待いたします。
- ●JSA Webdesk 維持会員専用サービスがご利用いただけます。

詳しくは 出版情報ユニット 販売サービスチーム へ　✉csd@jsa.or.jp　TEL 03-4231-8550

標準化と品質管理地区大会2017 開催スケジュール

北海道	10月20日(金)	札幌市／北海道経済センター (本部／TEL:03-4231-8502)
東　北	10月27日(金)	仙台市／イズミティ21 (本部／TEL:03-4231-8502)
中　部	10月31日(火)	名古屋市／中電ホール (名古屋支部／TEL:052-221-8316)
近　畿	10月27日(金)	大阪市／大阪府立男女共同参画・青少年センター (関西支部／TEL:06-6222-3130)
中　国	10月24日(火)	広島市／広島県民文化センター (広島支部／TEL:082-221-7023)
四　国	10月31日(火)	高松市／サンポートホール高松 (関西支部／TEL:06-6222-3130)
九　州	10月26日(木)	福岡市／福岡国際会議場 (福岡支部／TEL:092-282-9080)

お申込はWebで　JSA　大会　2017　検索　http://www.jsa.or.jp

実行委員会　2017.6.30 現在

［委員長］　椿　　広計　〈 独立行政法人　統計センター　理事長 〉

［委　員］　井上　善海　〈 東洋大学　経営学部　教授 〉
大橋　守　〈 一般社団法人　日本鉄鋼連盟　標準化センター事務局　事務局長 〉
金子　憲治　〈 有限会社　サービス経営研究所　代表取締役 〉
木澤　正　〈 千代田化工建設株式会社　SQEIマネジメントユニット　GM代行 〉
佐藤　喜次　〈 公益社団法人　消費者関連専門家会議　専務理事 〉
清水　朗子　〈 住友化学株式会社　レスポンシブル　ケア部(品質保証)　担当部長 〉
杉本　旭　〈 元 明治大学　理工学部　機械工学科　大学院理工学研究科　新領域創造安全学系専攻　教授 〉
髙木　美作恵　〈 クリエイティブ マインド　代表（元 シャープ株式会社）〉
高橋　晋　〈 東日本電信電話株式会社　資材調達センタ　品質管理部門　品質企画担当　担当課長 〉
田中　一彦　〈 一般社団法人　日本電機工業会　技術部　部長 〉
時田　潤　〈 日本電気株式会社　品質推進本部　シニアマネージャー 〉
冨岡　伸一　〈 サントリーMONOZUKURIエキスパート株式会社　品質保証本部　品質保証推進部　技術顧問 〉
萩野　新　〈 東レ株式会社　滋賀事業場　製品安全・品質保証企画室　主幹 〉
星川　安之　〈 公益財団法人　共用品推進機構　専務理事 〉
細川　哲夫　〈 株式会社リコー　品質本部　RICOH Quality推進室　CS品質グループ　エグゼクティブスペシャリスト 〉
光藤　義郎　〈 文化学園大学　特任教授 〉
三村　光代　〈 公益社団法人　日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会　最高顧問 〉
村川　賢司　〈 前田建設工業株式会社　顧問 〉
山本　隆司　〈 山梨県立大学　特任教授 〉
山本　宏史　〈 TOTO株式会社　浴室品質保証部　部長 〉

［企画協力］　国立研究開発法人　産業技術総合研究所
国立研究開発法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構

後援

- ●経済産業省
- ●厚生労働省
- ●国土交通省
- ●消費者庁
- ●総務省
- ●農林水産省
- ●公益社団法人　経済同友会
- ●一般社団法人　国際標準化協議会
- ●国立研究開発法人　産業技術総合研究所
- ●JIS登録認証機関協議会
- ●国立研究開発法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構
- ●中央労働災害防止協会
- ●独立行政法人　統計センター
- ●株式会社　日刊工業新聞社
- ●一般財団法人　日本科学技術連盟
- ●一般社団法人　日本経済団体連合会
- ●日本商工会議所
- ●公益財団法人　日本生産性本部
- ●一般社団法人　日本品質管理学会
- ●一般社団法人　品質工学会
- ●モノづくり日本会議

協賛

- ●一般財団法人　エンジニアリング協会
- ●一般財団法人　化学物質評価研究機構
- ●化成品工業協会
- ●紙パルプ技術協会
- ●公益財団法人　共用品推進機構
- ●一般社団法人　軽金属製品協会
- ●一般財団法人 建材試験センター
- ●高圧ガス保安協会
- ●一般社団法人　産業環境管理協会
- ●JIS懇話会
- ●公益社団法人　自動車技術会
- ●公益社団法人　消費者関連専門家会議
- ●一般社団法人　情報処理学会
- ●一般社団法人　情報通信ネットワーク産業協会
- ●ステンレス協会
- ●公益社団法人　精密工学会
- ●公益社団法人　石油学会
- ●石油連盟
- ●一般社団法人　セメント協会
- ●全国生コンクリート工業組合連合会
- ●公益財団法人　鉄道総合技術研究所
- ●一般財団法人　電気安全環境研究所
- ●一般社団法人　電子情報技術産業協会
- ●一般社団法人　電子情報通信学会
- ●一般社団法人　電池工業会
- ●一般社団法人　日本アルミニウム協会
- ●一般財団法人　日本ウエザリングテストセンター
- ●一般社団法人　日本運搬車両機器協会
- ●一般社団法人　日本エネルギー学会
- ●公益社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
- ●一般社団法人　日本化学工業協会
- ●一般社団法人　日本環境測定分析協会
- ●一般社団法人　日本機械学会
- ●日本金属継手協会
- ●日本金属熱処理工業会
- ●公益社団法人　日本経営工学会
- ●一般社団法人　日本計量機器工業連合会
- ●一般社団法人　日本計量振興協会
- ●公益社団法人　日本下水道協会
- ●一般社団法人　日本建材・住宅設備産業協会
- ●一般社団法人　日本建設業連合会
- ●一般社団法人　日本航空宇宙工業会
- ●一般社団法人　日本工作機械工業会
- ●一般社団法人　日本工作機器工業会
- ●一般社団法人　日本ゴム工業会
- ●公益社団法人　日本材料学会
- ●一般社団法人　日本産業機械工業会
- ●一般社団法人　日本産業車両協会
- ●一般財団法人　日本情報経済社会推進協会
- ●一般社団法人　日本照明工業会
- ●公益社団法人　日本食品衛生学会
- ●公益社団法人　日本食品衛生協会
- ●一般社団法人　日本伸銅協会
- ●公益社団法人　日本水道協会
- ●公益社団法人　日本設計工学会
- ●一般社団法人　日本塑性加工学会
- ●日本暖房機器工業会
- ●一般社団法人　日本鉄鋼協会
- ●一般社団法人　日本鉄鋼連盟
- ●一般社団法人　日本鉄道車輌工業会
- ●一般社団法人　日本電気協会
- ●一般社団法人　日本電気計測器工業会
- ●一般社団法人　日本電機工業会
- ●一般社団法人　日本電線工業会
- ●一般社団法人　日本時計協会
- ●一般社団法人　日本トライボロジー学会
- ●一般社団法人　日本塗料工業会
- ●日本内燃機関連合会
- ●日本ねじ研究協会
- ●一般財団法人　日本燃焼機器検査協会
- ●一般社団法人　日本配線システム工業会
- ●一般社団法人　日本バルブ工業会
- ●一般社団法人　日本物流システム機器協会
- ●日本プラスチック工業連盟
- ●一般社団法人　日本フルードパワー工業会
- ●一般財団法人　日本文化用品安全試験所
- ●一般社団法人　日本ベアリング工業会
- ●公益社団法人　日本保安用品協会
- ●一般社団法人　日本ボイラ協会
- ●一般社団法人　日本防　技術協会
- ●公益社団法人　日本包装技術協会
- ●一般社団法人　日本溶接協会
- ●一般社団法人　日本冷凍空調工業会
- ●公益社団法人　日本ロジスティクスシステム協会
- ●一般社団法人　日本ロボット工業会
- ●一般財団法人　バイオインダストリー協会
- ●一般財団法人　光産業技術振興協会
- ●一般社団法人　ビジネス機械・情報システム産業協会
- ●一般社団法人　プロジェクトマネジメント学会

標準化で、世界をつなげる。
一般財団法人 日本規格協会
SINCE 1945

標準化と品質管理全国大会2017 事務局
〒108-0073　東京都港区三田3-13-12　三田MTビル
TEL:03-4231-8502　FAX:03-4231-8650　MAIL:sq-zenkoku@jsa.or.jp

工業標準化推進月間事業

標準化と品質管理 全国大会2017

ジャパンクオリティ ― モノづくりから未来づくりまで

10月11日(水) 10:00～16:30 ／ 都市センターホール

企画協力：産総研　NEDO

標準化で、世界をつなげる。
一般財団法人 日本規格協会
SINCE 1945

JAPAN QUALITY

標準化と品質管理全国大会は、幅広い分野から多彩な講師をお招きし、毎年10月に開催しております。
本年度は「ジャパンクオリティ ― モノづくりから未来づくりまで」をテーマとして開催いたします。
キーワードとして「標準」「品質（技術、人と組織）」「未来づくり」「審査・監査・レビュー」を設定し、
それぞれの観点から各企業の取組みや最新動向、戦略などをご紹介します。
皆さまの業務にお役に立つ講演をご用意いたしました。是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

工業標準化推進月間事業

標準化と品質管理全国大会2017

ジャパンクオリティ ― モノづくりから未来づくりまで

10月11日(水) 10:00～16:30 ／ 都市センターホテル

ご注意

- 会場は当日発表いたします。
- 講演時間・講演タイトル・講演者は都合により変更する場合があります。
- 最新のプログラムは当会ウェブサイト(www.jsa.or.jp)をご参照ください。
- 各講演は事前予約制ではありません。当日、ご自由に講演をお選びいただくことができます。会場によっては満員となる可能性もありますので、その際は先着順とさせていただきます。

受付

都市センターホテル
(東京都千代田区平河町2-4-1)
3F コスモスホール

アクセス

有楽町線 ――「麹町駅」1出口 徒歩4分
南北線・有楽町線・半蔵門線 ――「永田町駅」9b出口 徒歩4分
(有楽町線・半蔵門線は、南北線の改札を経由して9b出口へ)
丸ノ内線・銀座線 ――「赤坂見附駅」D出口 徒歩8分
首都高速 ――「霞ヶ関出口」より5分

プログラム	標準	品質(技術)	品質(人と組織)	未来づくり	審査・監査・レビュー
10:00 ― 10:10	標準化と品質管理全国大会2017 主催者挨拶　一般財団法人 日本規格協会 理事長 揖斐 敏夫				
10:10 | 11:20	標1 "Connected Industries"の実現に向けた標準化政策 経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課長 萩原 崇弘 経済産業省では、第4次産業革命による技術の革新を踏まえて、将来的に目指すべき未来社会である「Society5.0」を実現していくため、様々な繋がりによって新たな付加価値の創出や社会課題の解決がもたらす、「Connected Industries」の概念を提唱し、官民一体で具体的な取組みを進めています。本講演では、「Connected Industries」の実現に向けての取組みと、欠かせない標準化政策の最新トピックについてお話しします。	技1 LIXILにおけるシックスシグマの取組みについて 株式会社LIXIL 品質本部 シックスシグマ推進部 部長 秋吉 幹男 2011年に住宅設備機器関連の5社が統合して出来た株式会社LIXIL。新たな事業体系におけるさらなる連携の必要性と、世界に誇れるグローバル企業を目指し、世界各国で広く問題解決のコミュニケーションツールとして活用されているシックスシグマを2012年に導入して活動してきました。本講演では、取組みの経緯と活動について事例を交えながらご紹介します。	人1 ソーシャルメディア時代におけるコミュニケーション 実践女子大学 人間社会学部 准教授 松下 慶太 Twitter, Facebook, Instagramなどソーシャルメディアは現在の若者にとって欠かせない存在です。またスマートフォンなどモバイルメディアはいつでも、どこでも、コミュニケーションを取ることを可能にしました。本講演では承認欲求、コミュニケーションの可視化、リアルとバーチャルなどをキーワードにしながら、若者たちがどのようにコミュニケーションを取っているのか、また社会・企業としてそれをどのように捉えるとよいのか、についてお話しします。	未1 インダストリー4.0最前線:Industrial IoTの導入とビジネスモデル ベッコフオートメーション株式会社 代表取締役社長 川野 俊充 第4次産業革命に向けた産業用IoTの取組みが日本でも加速しています。インダストリー4.0の概要と最新動向を踏まえ、課題となっているビジネスモデルに、例えば人工知能の活用でどのような解決を与えていくことが可能か、事例を交えてご紹介します。 (クラウドやビッグデータ、AIを「知恵の創造サイクル:SECIモデル」に適応し、加工条件の自動最適化に取組む駿河精機株式会社)	審1 安全衛生は経営を支える ～ISO(JIS Q)45001と新たなJISによる労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の普及推進～ 中央労働災害防止協会 技術支援部次長 兼 ISO規格推進室長 斉藤 信吾 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の国際規格ISO45001が早ければ11月に公表され、国内でもOSHMSのさらなる普及促進が予想されます。日本ではISO45001を和訳したJIS Q 45001に加え新たなJISを作成し、これらを一体で運用することで安全衛生水準の一層の向上を推進します。OSHMSの運用により安全衛生水準が向上すれば、生産効率も良くなり、経営を支えることにつながります。
11:40 | 12:50	標2 NEDOのIoT活用による価値創出を実現する技術開発と標準化への取組み 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター 電子・情報・機械システムユニット長 伊藤 智 製造業を始めとした様々な分野でIoTを活用して価値創出に繋げるためには、センサー、アクチュエータ等のデバイス、デバイスを制御しインターネットと接続する組込みソフトウェア、情報の収集と分析を行うプラットフォーム等に関する技術開発が不可欠であり、NEDOでは「IoT分野の技術戦略」を策定しました。今後のIoT活用を促進するための技術開発と標準化の取組みについてご紹介します。 標3 スマートマニュファクチャリングにかかわる国際標準活動の動向 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 製造技術研究部門 副研究部門長 加納 誠介 情報技術を活用したモノづくりの将来の姿として、製造現場のデータを活用した新たなサービスの創出が期待される「スマートマニュファクチャリング」が世界中で議論されています。これまであまり関連がなかった「モノづくり」と「製品ライフサイクル」につながりができることが期待されている中で、どこまでを協調領域として日本の強みを考えるかが重要です。このような状況を踏まえた国際標準活動の動向について、産総研の取組みを交えてお話しします。	技2 技術開発のための統計学 島根大学医学部医療情報部/統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 准教授 河村 敏彦 タグチメソッドは設計開発のための技術方法論として国内外に多くの事例が報告されています。海外ではその統計的側面について多くの研究がありますが、我が国では限られた研究しかありません。本講演ではロバスト設計を取り上げ、伝統的実験計画法や応答曲面法との類似点、相違点について歴史的、方法論的に議論します。近年、現場で盛んに行われているシミュレーションにおけるコンピュータ実験への応用についても解説します。	人2 株式会社 GSユアサにおけるQC検定の導入・活用のご紹介 株式会社 GSユアサ 品質統括部 部長 和根﨑 誠 当社は「革新と成長」の企業理念に基づき、全社員で品質向上を目指しています。モノづくり企業が「革新」し「成長」するには、その担い手である社員の品質知識習得と、品質管理手法の理解と実践が不可欠です。当社では、社員の人材育成の柱に品質教育を盛込み、社員の品質に対する力量向上と組織の品質向上を推進しています。本講演では、当社が品質教育の一環として導入しているQC検定について、その状況と効果をご紹介します。	未2 健全なサービスの保証活動 有限会社サービス経営研究所 代表取締役 金子 憲治 偽装表示や過重労働などサービス分野で多くの問題が指摘されますが、解決には周到なサービス提供の設計計画と工程管理方法が必要です。まず、ビジュアルマニュアル(VM)の導入によるサービス基準作りが出発点です。視聴覚表現のVMを使うことでサービス分野でも管理のサイクル(PDCA)を回して問題解決ができます。利害相反する顧客・作業者・企業・社会の全関係者が同時に満足できる「健全なサービスの保証活動」を、事例を示して解説します。	審2 専門業務サービス業におけるクラウドセキュリティ認証への取組み アセットインベントリー株式会社 専務取締役 洞 善康 当社は"棚卸代行サービス"というニッチ市場で、お客様に一番目に相談して貰える企業を目指し、専門業務サービスを提供しています。 現在ではISO9001・27001を活用した社内体制の強化、顧客ニーズへの迅速な対応により、業界2位まで成長を遂げることができました。 本講演では、当社の新たなステージとして「専門業務サービス業におけるクラウド活用」を目指し、どのようにクラウドセキュリティ体制を構築・運用したのかをご紹介します。
12:50 ― 13:50	昼食・休憩				
13:50 | 15:00	標4 スマートマニュファクチャリング実現と標準化に向けたつながる工場モデルラボ 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 製造技術研究部門 総括研究主幹 澤田 浩之 スマートマニュファクチャリングとは、現実世界をサイバー空間に取り込み、シミュレーション等を活用することで効率や品質を向上させていくものとされています。一方、特に中堅中小企業の間には、情報流出に対する警戒感もあり、また、主体的にその導入を進めることが困難という現実もあります。本講演では、情報化支援ツールやモデル工場構想等、現場目線からのスマートマニュファクチャリング実現に向けた産総研の取組みをご紹介します。	技3 バーチャルリアリティ技術の最先端 筑波大学 システム情報系 教授 岩田 洋夫 2016年が「VR元年」とも言われたように、バーチャルリアリティは身近な存在になりました。この技術の研究が立ち上がったのは今から30年ほど前です。そのときの主役がやはりHMD(ゴーグル型のディスプレイ)でした。HMDはVRの象徴とも言えますが、限界も多くあります。この30年間は、HMDをどう超えるかという課題への挑戦でした。本講演では、その研究開発の最先端を紹介するとともに、VRが生産現場や安全安心へどのように貢献するかについて展望します。	人3 安全文化を構築するための取組み デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社 サステナブル ソリューション事業部 事業部長 津田 積善 組織として安全文化を醸成することは、労働災害リスクの低減だけでなく、品質・生産性・従業員のモチベーションなど他の経営上のリスクを低減させることにも貢献します。 本講演では、200年以上にわたるデュポンの歴史の中で構築してきた、安全についてのグローバル共通の価値観や考え方を形成し、安全を実現するためのアプローチをご紹介します。	未3 ビッグデータ分析と人工知能 ～社会イノベーションと課題～ 東京大学 大学院情報学環 教授 須藤 修 まず、これまで私が研究してきたマシンラーニングを用いた予防医療、マシンラーニングを用いたデータ分析などをご紹介します。その上で、現在、世界的規模で展開しているIoT、クラウド、AIを用いた大規模なデータドリブン・イノベーションについてご紹介します。さらにその社会へのインパクトと課題について考えたいと思います。	審3 実践的なIoTセキュリティの構築 Secure IoT Alliance 理事長 (株式会社SELTECH 代表取締役社長) 江川 将偉 Secure IoT Allianceは、異なる業界の主体が様々な視点からIoTの課題を話し合い、IoT製品の安心・安全を確保する堅牢なセキュリティを実現するフレームワークを提唱・推進していくことを設立趣旨としています。現在ワーキンググループではネットワーク環境の各種問題点や脆弱性、IoT製品の脅威項目について分析・検討して対応策を仮定し、実証実験と評価を通じてその効果を測定しています。これによって仕様を定義し、セキュリティ規格を策定することで、安全なIoT製品を安心して利用できる世界の実現に取組んでいきます。
15:20 | 16:30	標5 NEDO「超低消費電力光エレクトロニクス実装システム技術開発」成果の事業化と標準化 アイオーコア株式会社 技術開発本部長 藏田 和彦 IoTの進展により情報処理量が増大を続ける中、高速・低消費電力な光エレクトロニクスデバイスの普及に向け、NEDOプロジェクトの成果として実用化された光I/Oコア(超小型光トランシーバ)の生産販売会社として2017年4月にアイオーコア社が設立されました。光I/OコアはIoTを支える様々な機器に組み込まれるキーコンポーネントの一つであり、研究開発と並行して標準化活動を推進してきました。本講演では本成果の普及に係る事業化と標準化との連携、狙い、今後の展開等についてご紹介します。	技4 世界のトイレを快適に良品と均質のモノづくり TOTO株式会社 執行役員 ウォシュレット生産本部長 堀本 幹夫 日本での普及率が100%を超えた温水洗浄便座。我々はその第一人者として、ウォシュレットを核として世界のトイレも快適にしていきます。 世界の需要に応えるために、TOTOでは多くの工夫を取り入れています。開発効率を向上させるグローバル一括企画・開発、国内外4工場での品質を安定させる工程標準化、不具合撲滅のための設計・製造フロントローディングなど、「良品と均質」を実現するモノづくりをご紹介します。	人4 安全と品質は企業活動の根幹でありマネジメントそのもの 安全と人づくりサポート 代表 古澤 登 安全と品質は、企業活動の生命線とも言えます。基本にあるのは、①「決めをつくる」②「決められたことを決められたとおりに実行」③「多くの変化点(バラツキ:結果)への対応」であることは言うまでもありません。しかし、労働災害も品質不良もゼロにすることは困難です。「現場で起きていることはどんなことか?」「真の要因に結びつける活動とは?」など、実践的安全活動の推進結果から企業体質を強化するための考え方・進め方をご紹介します。	未4 「やってみなはれ」 ～サントリーグループ・挑戦の歴史～ サントリー食品インターナショナル株式会社 代表取締役社長 小郷 三朗 1899年の創業以来、サントリーはウイスキーをはじめとする日本の洋酒文化を切り拓いた創業者のチャレンジ精神を受け継ぎ、グローバルな総合酒類食品企業として、ビールや清涼飲料、健康食品などのさまざまな事業分野を開拓してきました。本講演では、これまでの歩みを振り返りながら、当社の絶えざる挑戦の歴史と数々のイノベーションを生み出してきた「やってみなはれ」に代表されるユニークな企業文化をご紹介します。	審4 HACCP制度化と食の安全・安心の国際的動向 ～東京オリンピックに向けて日本企業の対応は?～ 山口大学 共同獣医学部 教授 豊福 肇 食品衛生の一般則とHACCPは食品の安全性を確保する国際標準のツールです。ヨーロッパでは一次生産を除く食品事業者に対し2006年から義務化、アメリカでも畜場、食肉製品製造業、水産、ジュースは90年度後半から義務化、さらにFSMAによりすべての製造加工業者にHACCPの進化形である予防未然防止が義務化されています。また、HACCPとISO9000を合わせたISO22000の普及、GFSIでベンチマークされた国際的認証スキームを要求する小売業者等の増加等、さらには厚労省の打ち出したHACCPの制度化の方針等により、我が国ではフードチェーンのすべての事業者がHACCPに取組まなければならない状態になっています。このような状況を踏まえ、我が国食品事業者が取組まなければならない課題等についてご紹介します。

●敬称略 ●プログラム[標準]の企画協力／産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構